

厳冬期の乗鞍岳に登る

山行日 2019年2月23日(土)～2月24日(日)

コース 1日目 スキー場頂上駅 9:00－肩ノ小屋入口 11:30－位ヶ原小屋 13:30
2日目 位ヶ原小屋 6:47－肩ノ小屋入口－肩ノ小屋 8:34/8:51－朝日岳 9:30－乗鞍岳剣ヶ峰 10:02/10:32－朝日岳 10:51－肩ノ小屋入口 11:30－スキー場頂上駅 13:15 スキー場駐車場 14:52

1日目

快晴のもと、リフトでスキー場上駅に着き、周りの登山者と同様に、アイゼンを装着し、急坂を挑む。足元の雪面は心地より肌触り(足触り?)で、予定とおりの登頂が期待できる。森林帯の急坂をすぎて位ヶ原にかかると、真っ白な剣ヶ峰が姿をみせるが、正面からの風が高度を上げるほどに強くなる。振りかえると、中央アルプスの峰々の奥に、南アルプスの山々が長々と横たわる。最高の景色だ。程なく肩ノ小屋入口の小屋が見えてきたが、氷の混ざるかなりの地吹雪が、体にあたる。喘ぎながら、肩ノ小屋入口まで来たが、地吹雪が舞う肩の小屋のある稜線以降は、さらなる強風が予想され、本日はここまでとし、明日を期待して、位ヶ原小屋に撤退する。1時半に小屋につき、夕食の6時までは、小屋のこたつの中でアルコールをいただくが、夕食までの時間が長かった。

2日目

朝起きて、窓の外を見ると、光光とした月がみえる。今日の乗鞍の天気は、快晴で風が弱いとのテンクラの予想とおりで、すでに頂上を果した気分である。アイゼンを装着し、小屋を出て昨日の肩ノ小屋入口を目指す。宿から位ヶ原への直登にかかるが、壁は氷面で、ストックでの登坂は心もとなく、面々あえぐ。位ヶ原へ登り来ると、背後に真っ白な穂高の山々が見えた。絶景なり。肩ノ小屋入口から肩ノ小屋へは、風もなく快適な行進となる。

肩ノ小屋に着くと、近くで鳥の声が聞こえる。カメラを掲げてかけずり廻ると、真っ白な雷鳥が1羽。シャッターを押す。初めての純白の雷鳥に感激する。休憩後に最後の登頂となる。先行者は、朝日岳を直登するが、リーダーの指示で朝日岳をトラバースする。角度のある氷面のトラバースで、滑落が怖い。ピッケルの刺さりが弱い。各自氷面と格闘し、横に上へとあえぐ。背後には穂高や鹿島槍を含む北アルプスの山並みが、真っ青な空のもとに横わたる。鞍部まで登りきると、正面に真っ白な白山が現れた。蚕玉岳と最後の斜面を登り切ると、氷のたれる鳥居と宮のある頂上に着く。頂上からは、今だに煙のあがる白い御嶽山が、デーンと存在していた。

小生にとって初めての厳冬期の3000米峰である。リーダー及びメンバーに感謝である。心地よい疲れを感じた登山であった。

